

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	学術創成のための知識の構造化とネットワーク型知識基盤の構築	研究代表者名	松本 洋一郎
-------	-------------------------------	--------	--------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
個々の課題については成果を得ているが、それらをネットワーク型知識基盤に具体化する方策が今ひとつ明確でないようである。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
知識基盤の構築が重要であることの主張において貢献している。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
個々の分野の研究成果とテーマの重要性に関する主張に成果を得ているものの、難度の高い概念テーマのせいか、知識の構造化と基盤構築への道筋は今ひとつ明確でないようである。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア (×) 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
積極的な公表は高く評価できる。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

材料プロセスの多重スケール解析や環境・社会問題個々の分野については一定の成果を得ている。テーマの難度が高すぎたせいか、目的の概念の具体化には今一步であったが、異分野のインターフェーシングを真剣に進め、その概念の重要性を主張した努力は高く評価される。